

法人企業景気予測調査結果(平成 30 年 4～6 月期調査)のポイント ～中国地方～

景況感は、「下降」超幅が縮小し、翌期は「上昇」超に転じる見通し

景況感(現状判断)は、食料品製造で新商品の投入効果などにより売上が増加しているほか、宿泊・飲食サービスでイベントやリニューアル効果により宿泊客数が増加していることなどから、2期ぶりに改善し、「下降」超幅が縮小。

先行き見通しについては、電気機械で電力量計などの需要が増加する見込みであるほか、建設で民間工事が増加する見込みであることなどから、翌期は「上昇」超に転じる見通し。

また、平成 30 年度の経常利益は前年を下回るものの、売上高及び設備投資は前年度を上回る見通し。

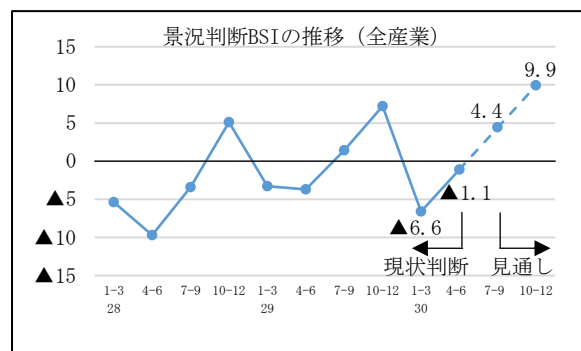
雇用(従業員数判断)は、「不足気味」超幅が縮小。

(調査対象企業数 822 社、回答企業数 788 社、回収率 95.9%)

1. 景況判断:「下降」超幅が縮小(前期▲6.6%ポイント→今期▲1.1%ポイント)

- 製造業(1.8%ポイント)は、受注量の減少(鉄鋼)などがあるものの、新商品の投入効果などによる売上の増加(食料品)や、車載用電子部品の需要増加(情報通信機械)などから、「上昇」超に転じた。
- 非製造業(▲2.8%ポイント)は、住宅建設に一服感(建設)などがあるものの、イベントやリニューアル効果による宿泊客数の増加(宿泊・飲食サービス)や、取扱荷物量の増加や運賃引上げ(運輸・郵便)などから、「下降」超幅が縮小。
- 大企業は「上昇」超が続き、中堅企業は「上昇」超に転じ、中小企業は「下降」超幅が縮小。
- 先行き見通し(全産業)については、翌期(平成 30 年 7～9 月期)は「上昇」超に転じ、翌々期(平成 30 年 10～12 月期)は「上昇」超幅が拡大する見通し。

【景況判断 BSI】(BSI: 前期比判断「上昇」-「下降」社数構成比)【単位: %ポイント】



	30年1～3月 前回調査	30年4～6月 現状判断	30年7～9月 見通し	30年10～12月 見通し
全産業	▲ 6.6	▲ 1.1	4.4	9.9
製造業	▲ 8.4	1.8	10.6	14.8
非製造業	▲ 5.7	▲ 2.8	1.0	7.1
大企業	0.6	0.6	5.3	7.1
中堅企業	▲ 11.1	3.2	7.7	13.1
中小企業	▲ 7.1	▲ 4.3	2.3	9.3

【景況判断に関する企業の声】

【製造業】

- ▼ 鉄鋼: 受注ペースが下降気味であり、当初の見込みを下回っている。
- △ 食料品: 春夏向けの新商品を投入した効果で前期よりも売上が伸びた。
- △ 情報通信機械: 自動車の性能向上や自動化の推進を背景に車載用電子部品の需要が堅調に推移しており、出荷量が増加している。

【非製造業】

- ▼ 建設: 主力の戸建住宅の受注が一段落し、引渡し棟数が減少している。
- △ 宿泊・飲食サービス: 旅館の内装をリニューアルした効果により、客数、客単価ともに増加した。
- △ 運輸・郵便: 取引先の業容拡大に伴い当社の取扱荷物量が増加。当社の人件費増加を踏まえた運賃の引上げも取引先の理解が得られ小幅ながら実現している。

2. 売上高(平成 30 年度):前年度比 5.9%の増収見通し(上期:増収(6.0%)、下期:増収(5.8%))

- 製造業は、スマートフォン向け部品などの受注増加(情報通信機械)、SUV の増産や部品受注の増加(自動車)などから、9.0%の増収見通し。
- 非製造業は、運賃引上げや取扱荷物量の増加(運輸・郵便)などから、0.9%の増収見通し。
- 大企業、中堅企業、中小企業のいずれも増収見通し。

3. 経常利益(平成 30 年度):前年度比▲1.7%の減益見通し(上期:減益(▲7.2%)、下期:増益(3.7%))

- 製造業は、ナフサなどの原料価格の上昇(化学)などから、▲0.5%の減益見通し。
- 非製造業は、人件費の増加や前年の収益性の高い工事の反動減(建設)などから、▲4.3%の減益見通し。
- 大企業、中小企業は減益見通し、中堅企業は増益見通し。

4. 設備投資(平成 30 年度):前年度比 15.4%の増加見通し(上期:増加(22.4%)、下期:増加(10.2%))

- 製造業は、新型車対応投資(自動車)、生産能力の増強投資(化学)などから、17.9%の増加見通し。
- 非製造業は、老朽設備の更新(電気・ガス・水道)、新規出店(小売)などから、9.1%の増加見通し。
- 大企業、中堅企業は増加見通し、中小企業は減少見通し。

5. 雇用(従業員数判断):「不足気味」超幅が縮小(前期 37.9%ポイント→今期 30.5%ポイント)

- 製造業(30.5%ポイント)は、新卒者等の採用、受注の落ち着きなどから、「不足気味」超幅が縮小。
- 非製造業(30.5%ポイント)は、手持ち工事の減少、新卒者等の採用などから「不足気味」超幅が縮小。
- 大企業、中堅企業、中小企業のいずれも「不足気味」超幅が縮小。
- 先行き見通し(全産業)については、翌期(平成 30 年 9 月末)、翌々期(平成 30 年 12 月末)ともに「不足気味」超の見通し。

【附 広島県の概要】

景況感は、「下降」超幅が縮小し(前期▲3.6%ポイント→今期▲1.4%ポイント)、翌期は「上昇」超に転じる(翌期 10.9%ポイント)見通し

- 製造業(前期▲8.2%ポイント→今期▲1.8%ポイント)は、電機機械などが下降しているものの、はん用機械、自動車などが上昇していることから、「下降」超幅が縮小。
- 非製造業(前期▲1.0%ポイント→今期▲1.2%ポイント)は、宿泊・飲食サービスなどが上昇しているものの、不動産、情報通信などが下降していることから、「下降」超幅が拡大。
- 大企業は「下降」超に転じ、中堅企業は「上昇」超に転じ、中小企業は「下降」超幅が縮小。
- 先行き見通し(全産業)については、翌期(平成 30 年 7~9 月期)は「上昇」超に転じ、翌々期(平成 30 年 10~12 月期)は、「上昇」超幅が縮小する見通し。

よそくちゃん



【お問い合わせ先】

中国財務局経済調査課(森山、藤田)
電話番号 (082) 221-9221(代表)
(082) 223-3038(直通)
F A X 番号 (082) 221-3845
<http://chugoku.mof.go.jp/>